

図 世帯人員の変化（平成 17 年→ 27 年）

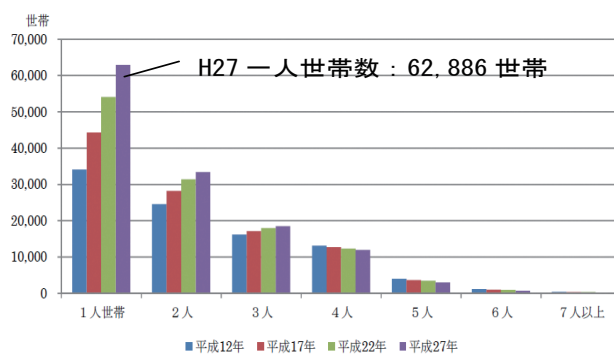


図 単身世帯率の変化（平成 17 年→ 27 年）

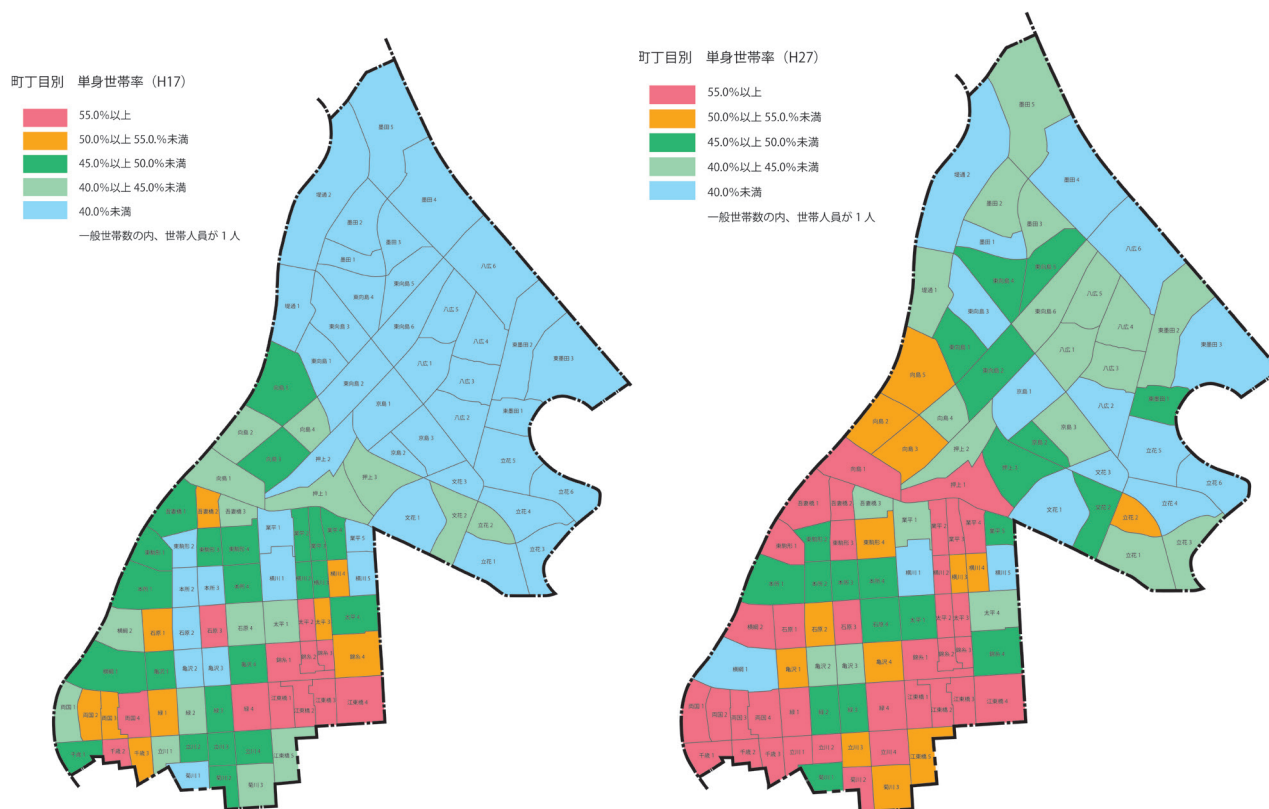
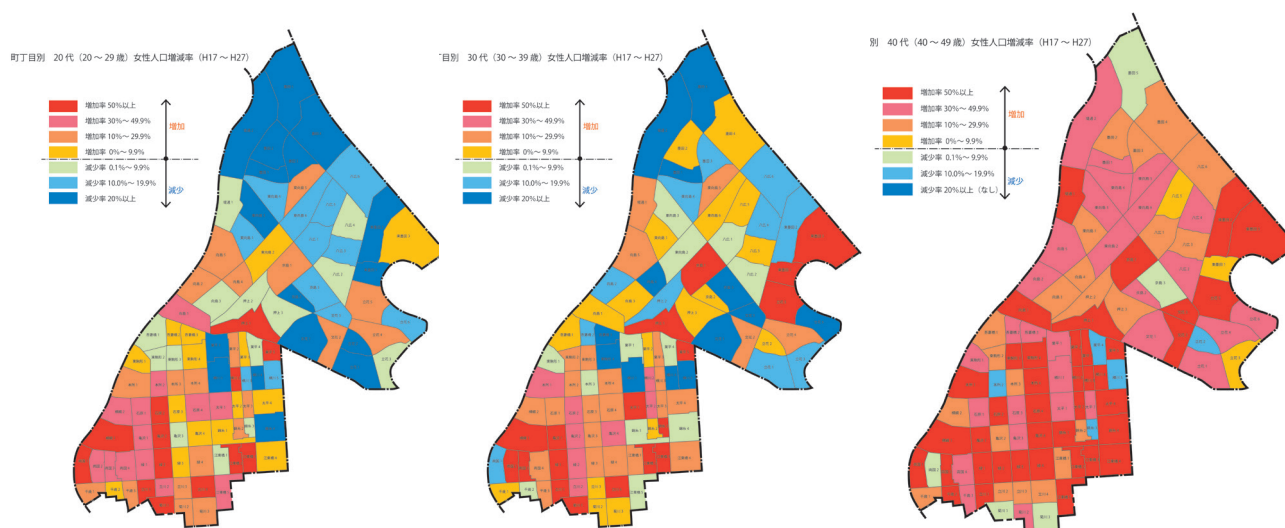


図 20・30・40代女性の人口変化（平成 17 年→ 27 年）



< 外国人 >

図 外国人転入実績

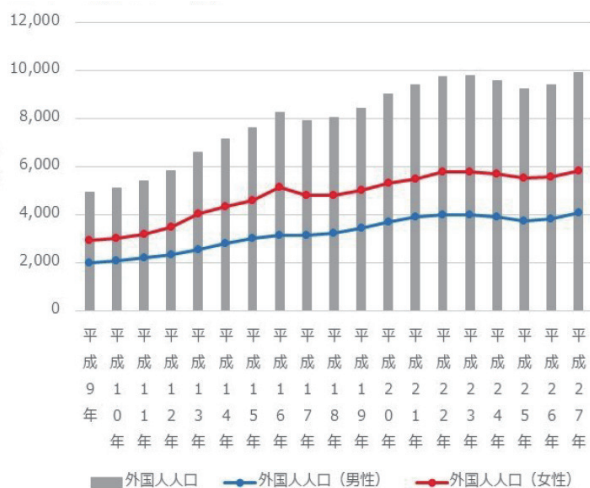
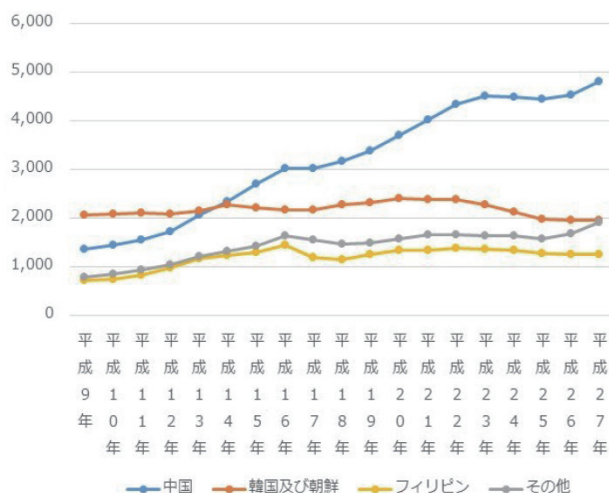
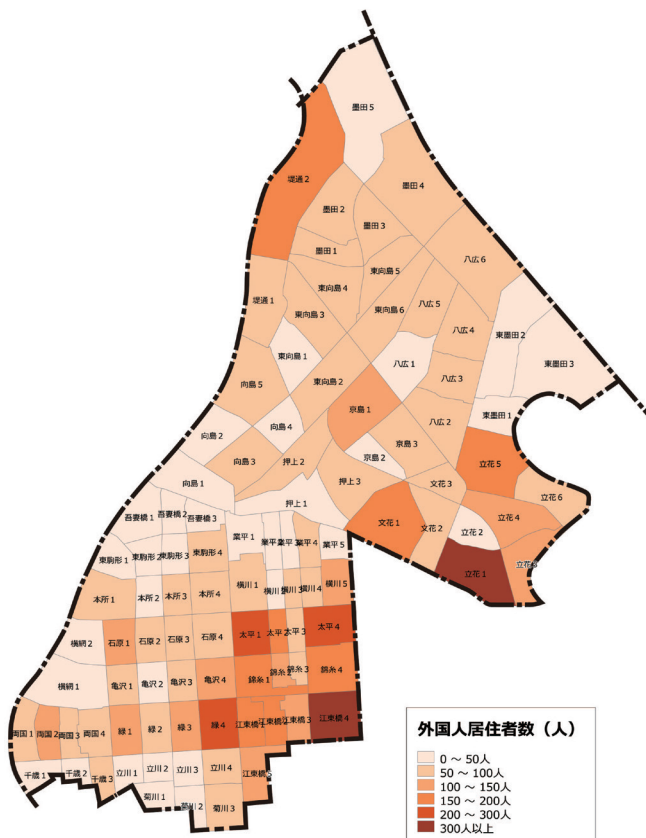


図 主な国籍



出典：外国人登録及び住民基本台帳（墨田区）

図 外国人居住地



- ・外国人の転入は、多少の波はありつつも増加傾向で推移している。
- ・平成14年以降は、中国籍の転入が顕著に増えている。近年、韓国・朝鮮籍、フィリピン籍がやや減少し、多国籍化が進んでいる。
- ・外国人は、錦糸町駅周辺や立花、白鬚団地に多く居住している。

④ 白鬚団地について

- ・公営住宅の特性を反映して、高齢化、年少人口の急激な減少、世帯人員の縮小、外国人割合も多くなっている。

2 土地利用変化（これまでの施策効果等の確認）

①土地・建物利用概況（住商工の変化）

< 土地利用 >

- ・墨田区の土地利用は、用途地域の指定状況を反映して、商業地や工業地にそれぞれ一定規模の商業専用や工業専用集積がみられるが、区域全体にわたり、小規模の商業・工業・住宅の混在がみられる。
- ・土地利用構成は、交通・空地・水面系が45%を占め、建築宅地が55%を占めている状況は10年前とほぼ変わらない。
- ・宅地の中では工業系・商業系が減少し、住宅系が増え続けている。その内訳をみると、工業系の減少が大きく特に住居併用工場の土地利用が減少し、住宅専用の用途が増えている。
- ・商業系・工業系の土地利用は全区に広がっており、商店街以外の場所での商業施設の立地も珍しくない。
- ・町丁目別にみると、押上ではスカイツリー建設に伴い工業系が減少して商業系が増加しており、北部では八広・立花で工業から住宅系への変化が大きい。南部では両国と錦糸町駅の間付近で商・工から住宅系への土地利用変化が生じた。

図 用途地域区分

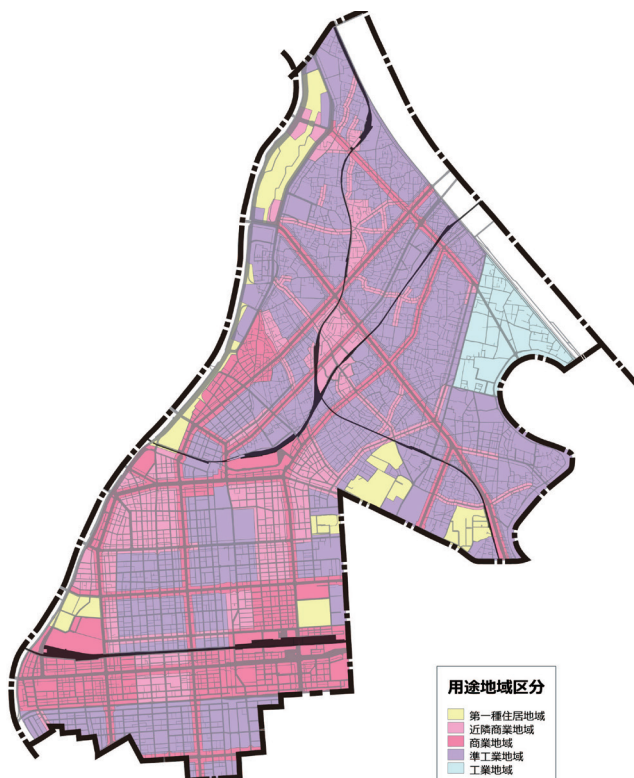
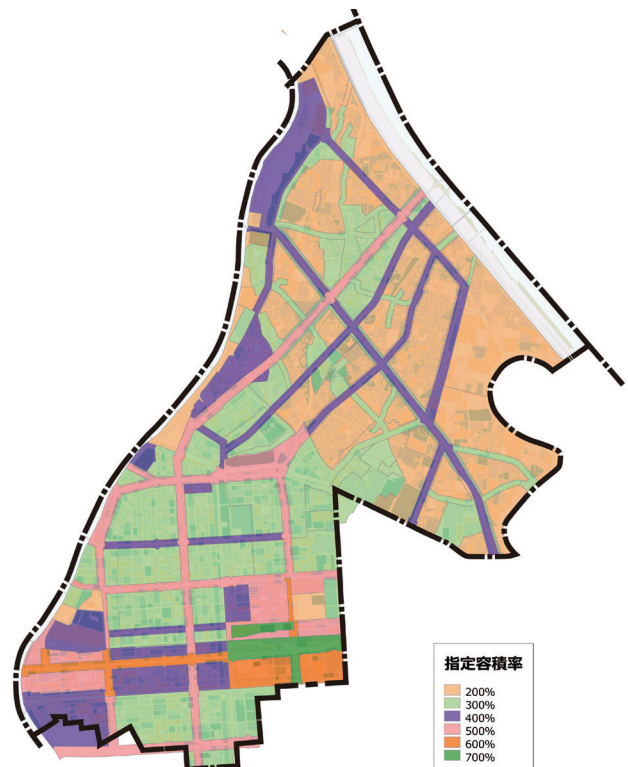


図 指定容積率



出展：各年国勢調査

図 土地利用現況の構成

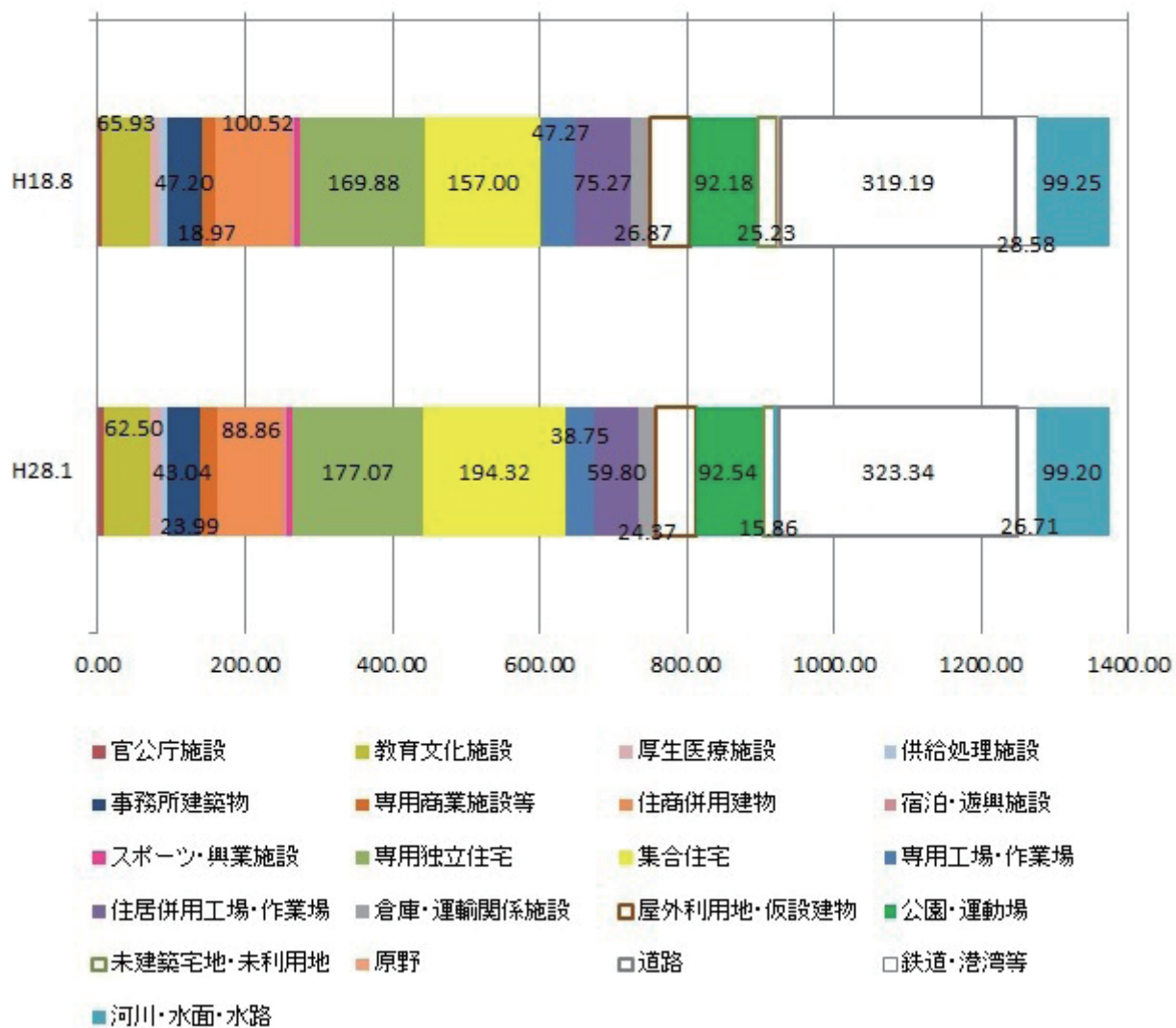


図 種別ごとの構成比の変化

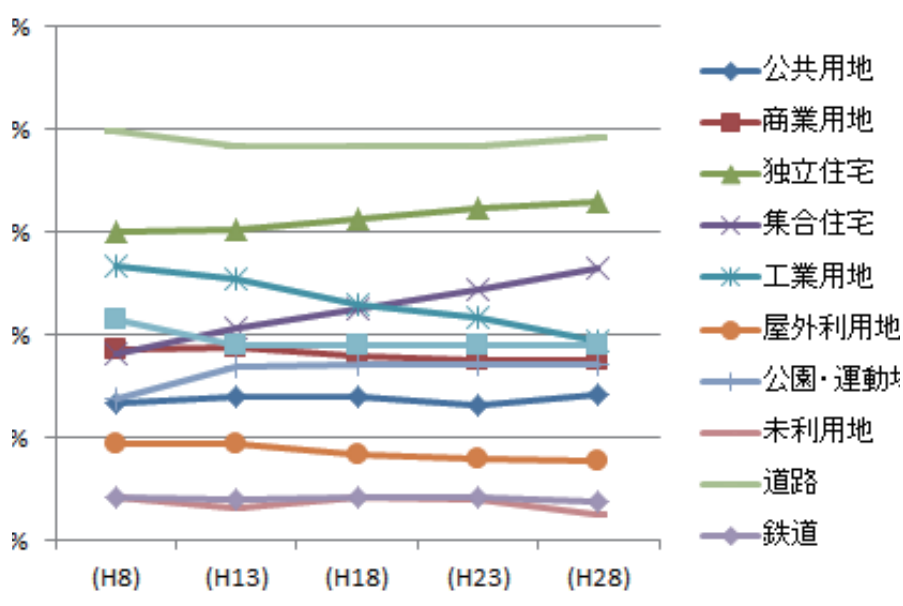
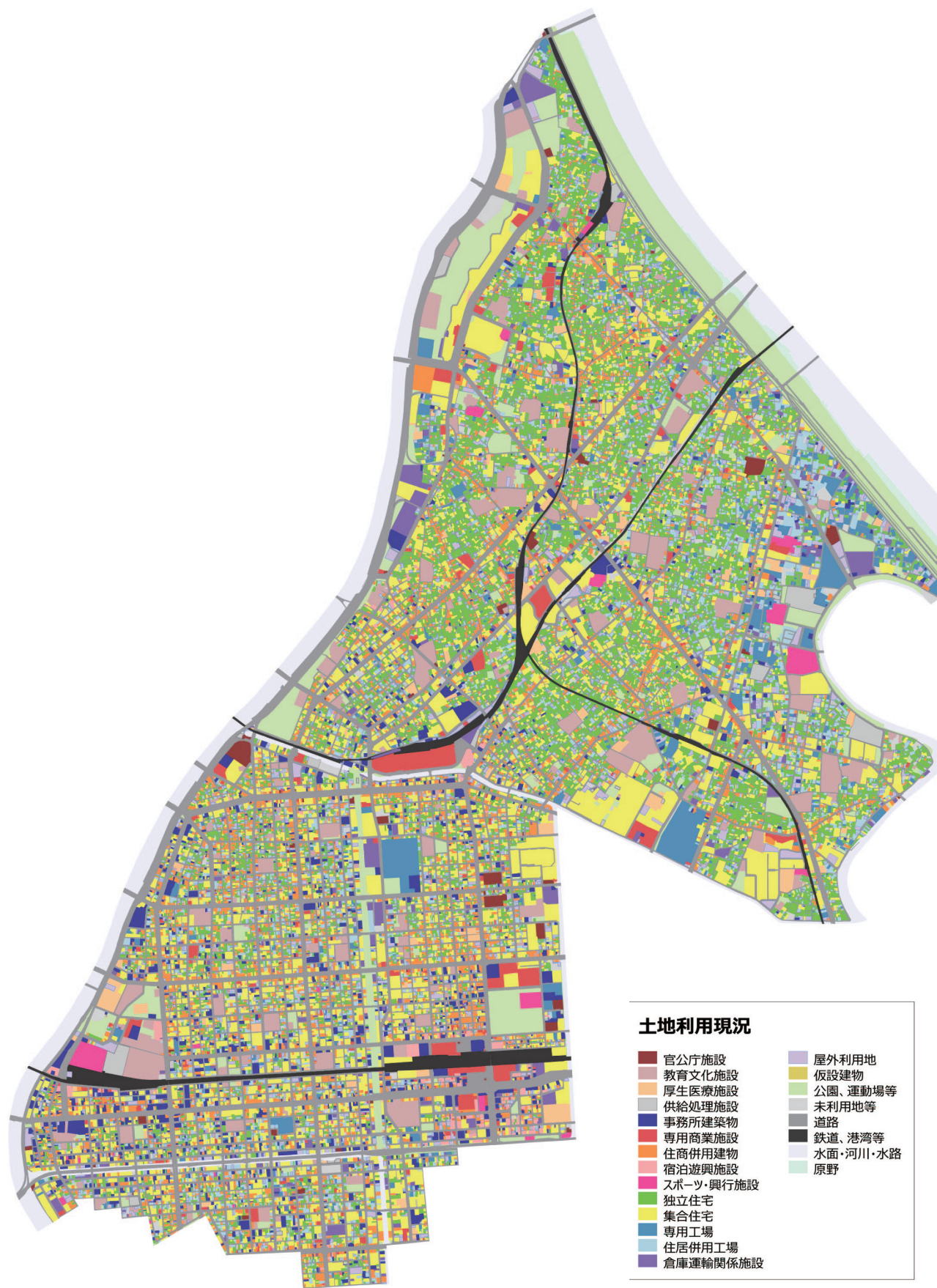


図 土地利用現況分類図



出展：平成 28 年墨田区土地利用現況調査